

小児急性虫垂炎診療ガイドラインは臨床現場に浸透しているのか
—画像診断の選択の観点から—

1. 研究の目的

2017年6月、小児救急医学会より「小児急性虫垂炎診療ガイドライン」が策定されました。その中で、小児急性虫垂炎診断においては原則として超音波検査を第一選択とするのが望ましく（推奨度A）、技術的に難しい場合や感度の低い場合、穿孔が疑われる場合には必要に応じてCT検査を考慮し、その場合1回の造影CTが望ましい（推奨度B）と記載されています。

当施設は地域の中核病院として小児三次医療機関に指定され、県内から重症患者が集まる一方、近隣の一般小児科からの紹介患者も広く受け入れています。そこで、他院から紹介されてくる患者の中で、どれくらいの割合でCT検査が行われているか、その適応や撮像プロトコールはガイドラインに沿っているのかなどを検証することを目的としています。

2. 研究の方法

対象：2013年4月から2021年12月までの間に、紹介状に急性虫垂炎もしくは右下腹部痛との記載があり当院に紹介となった患者もしくは当院で急性虫垂炎と診断された患者を対象とします。

方法：過去の診療記録、検査所見等をもとに調査を行います。

3. 情報の公表

研究結果は日本小児救急医学会学術集会において発表し、論文として公開される予定です。患者様の個人情報が公表されることはありません。

4. 研究実施機関およびお問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

群馬県立小児医療センター 小児外科 則内友博

住所：〒377-8577 群馬県渋川市北橘町下箱田 779 番地

電話：0279-52-3551